

# 投資型年金 グッドステージ

## 特別勘定の現況 兼 特別勘定レポート

(2010年度) (2011年6月発行)

### ● 投資環境(2010年度)

#### 日本株式市場

当期の日本株式市場において、日経平均株価は期初11,089円で始まりました。4月3日に当期の高値となる11,339円をつけた以降は、欧州諸国の財政懸念等によるリスク回避姿勢の強まりから円高が進行したため、輸出関連株等が売られ、8月には9,000円台を割り込みました。その後、米国の金融緩和措置や円高傾向が解消されたことから相場は上昇に転じました。しかし、東日本大震災の影響で3月中旬には再び9,000円を割り込み、当期の安値となる8,605円をつけましたが、期末にかけ上昇し9,755円で終了しました。

#### 外国株式市場

当期の外国株式市場は、昨年度末からの経済回復期待で堅調に始まりましたが、その後脆弱な米経済指標の発表や欧州諸国の緊縮財政政策が世界的な経済成長を鈍らせるとの懸念が高まり、7月に米国S&P500指数は1,022ポイント、英国FTSE100指数は4,805ポイントの安値をつけました。9月以降は好調な経済指標や金融緩和策の発表等により上昇に転じ、3月に日本の震災と原発問題があったものの、期を通じて堅調に推移し、期末はS&P500指数が1,325ポイント、FTSE100指数が5,908ポイントで終了しました。

#### 日本債券市場

当期の日本債券市場において、長期金利(10年国債利回り)は期初1.40%で始まりましたが、4月以降の欧州財政危機に伴う投資家の質への逃避行動や景気回復への懸念等から利回りは下落(価格は上昇)基調となり、9月には0.84%まで低下しました。米国の中央銀行による追加的な金融緩和策によって、景気の先行き見通しや金融市場のセンチメント(市場心理)が回復し、資産価格上昇および金利上昇が見られた結果、利回りは上昇し、2月には1.3%台までつけましたが、期末は東日本大震災の影響により1.26%で終了しました。

#### 外国債券市場

当期の外国債券市場は、期初、ギリシャ債務懸念の周辺諸国への波及や米国の経済指標が弱含んだことから景気減速懸念が再燃し、これに伴う投資家の質への逃避行動から債券が買われ、利回りは下落(価格は上昇)し、米国国債(10年債)で2.38%、ドイツ国債(10年債)で2.12%となりました。その後は、米国の景気回復期待などから、主要国の国債利回りは上昇に転じました。3月には日本の震災と原発問題から一時的に下落しましたが、期末は米国国債(10年債)が3.47%、ドイツ国債(10年債)が3.35%で終了しました。

#### 外国為替市場

当期の外国為替市場は、年度を通じて円が主要通貨に対して強い展開となりました。円は対米ドルで93円台から始まりましたが、市場での利上げ観測が後退したことから円高が進み、11月初旬には80円台前半をつけ、95年以来的円高水準に達しました。対ユーロについても円高が進み、期初の126円台から、8月には一時01年以来的105円台をつけました。3月の日本の震災と原発問題により、対米ドルで一時78.89円をつけたものの、その後は円が売られ、期末は、対米ドルが83.13円、対ユーロが117.69円で終了しました。

### ● 特別勘定の運用方針

#### ①当期の運用実績の推移

各特別勘定の運用状況をご参照ください。

#### ②当期の運用方針

当社は、各特別勘定の運用方針に従い、特別勘定の運用を実施しました。

#### ③今後の運用方針

当社は、今後とも、各特別勘定の運用方針に従い、特別勘定の運用を行う方針です。

最終ページには「ご負担いただく費用について」、「投資リスクについて」等が記載されておりますので、必ずご確認ください。



# スイッチング テレホンサービスマニュアル

このマニュアルは、プッシュホン信号の出せる電話機を使って、ご自宅などから、ご契約者自らが積立金の移転（スイッチング）を行うための手順の1つである「特別勘定コード入力方法」を示したものです。

## ■積立金の移転（スイッチング）とは…

ある特別勘定（ファンド）ですでに積み立てた積立金を他の特別勘定に移転して、各特別勘定（ファンド）の積立金の割合を変更することです。

「積立金の移転（スイッチング）」によって、すでに積み立てた積立金の割合は変更されますが、リバランス（積立金の配分をあらかじめ指定した割合に定期的に自動調整する機能）のご指定割合については、「リバランスの設定・解除」のお手続きが必要です。

## はじめに

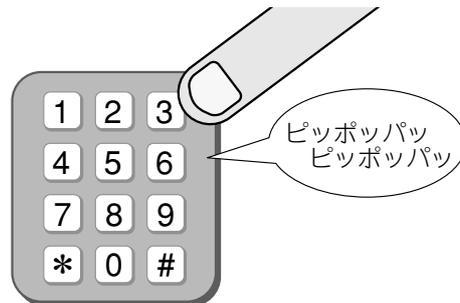
### ■利用できる電話の種類

- プッシュホン信号の出せる電話機
- 携帯電話やPHS
- NTTの公衆電話など

### ■利用時間

午前 9:00 ~ 午後 9:00

※原則、365日利用できます。ただし当社非営業日の場合、翌営業日に受け付けたものとしてお取り扱いします。



### ■変更内容の反映日

今回変更する特別勘定（ファンド）の積立金の移転の場合におけるユニットプライスの評価基準日は、下表のとおりになります。\*

種類	特別勘定の名称	投資対象となる投資信託等	コード	ユニットプライスの評価基準日
株式型	日本株式（A）	フィデリティ・日本成長株ファンド・VA2	401	会社受付日
	日本株式（B）	ダイワ・バリュー株・オープンVA	402	
	日本株式（C）	ドイチェ・ジャパン・ファンドVA	403	
	日本株式（D）	ダイワ・ジャパン・オープンVA	404	
	世界株式（A）	大和住銀/T.ロウ・プライス外国株式ファンドVA	405	会社受付日の翌営業日
債券型	世界債券（A）	ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVA	406	会社受付日の翌営業日
総合型	世界バランス（A）	フィデリティ・バランス・ファンドVA2	407	
金融市場型	マネー（A）	マネー・オープン他	408	会社受付日

\* ユニットプライスの評価基準日が異なる特別勘定間の移転については、移転手続きする契約の移転前および移転後の全ての特別勘定のうち、最も遅い評価基準日のユニットプライスが適用されますのでご注意ください。

## 番号に沿って、実際にやってみましょう

■契約時に、当社から発行された、お客さまのログインID（14桁の数字）とテレホンサービス用のパスワード（4～8桁の数字）を事前に確認してください。

■電話をかける前にメモと筆記用具を用意してください。また、変更内容（特別勘定コードと割合（%））を決めてから作業を始めてください。

（入力作業完了後、「受付番号」が流れますので記録しておきます。お問合せの時に便利です。）

■1～13の作業を行います。各作業後には「音声ガイダンス」が流れます。

（音声ガイダンスが流れている間に、次の作業を行っても構いません。）

0120-155-730に電話をかけます。アナウンスが流れます。

### 音声ガイダンス

- お電話ありがとうございます。東京海上日動フィナンシャル生命テレホンサービスです。～最初に、「\*（コメ）印」を押してください。どうぞ。

## 1 「\*」を押します。

### まず、契約者の確認を行います。

#### 音声ガイダンス

- ログインIDをお持ちの方は、ログインIDを入力し、最後に「#」を押してください。どうぞ。～

## 2 ログインIDを押して、最後に「#」を押します。

アドバイス → 当社の発行したログインIDを使います。  
※14桁の数字

#### 音声ガイダンス

- 次にパスワードを入力し、最後に「#」を押してください。～

## 3 パスワードを押して、最後に「#」を押します。

アドバイス → テレホンサービス用のパスワードを使います。  
※4～8桁の数字

ログインIDやパスワードを押して間違えた場合は、**音声ガイダンス**「ログインIDまたはパスワードが違います。」と案内されて**2**に戻りますので、ログインID、パスワードの順に再入力してください。

### 積立金の移転のメニューを選びます。

#### 音声ガイダンス

- 初期メニューです。
    - ◎自動音声による金額の照会、お手続きは 「1」を
    - Faxによるご契約内容・金額の照会は 「2」を
- 押してください。 ピー。

## 4 「1」（自動音声応答サービスによるお手続き）を押します。

#### 音声ガイダンス

- ユニットプライスの照会は 「1」を
  - 解約払戻金の照会は 「2」を
  - 繰入割合の変更は 「3」を
  - ◎積立金の移転は 「4」を
- 押してください。 ピー。

## 5 「4」（積立金の移転）を押します。

### 特別勘定を入力する方法を選びます。

#### 音声ガイダンス

- 積立金の移転を行います。今回の積立金の移転回数は※※回目です。
  - 個別に積立金割合の変更を入力する場合は 「1」を
  - ◎特別勘定コードごとに入力する場合は 「2」を
  - 初期メニューに戻る場合は 「#」を

「1や2」の数字と、「～回目」の音声の間が飛んでいて聞きにくいかもしれません。

押してください。 ピー。

## 6 「2」（特別勘定コードごとに入力）を押します。

入力方式について 積立金の移転割合を入力する方法は、上記の2通り（個別に割合を変更／特別勘定コードごと）があります。ここでは、より簡単な「2」の特別勘定コードごとに入力する方法をお勧めします。

### 音声ガイダンス

- 現在の積立金割合をお聞きになる場合は 「1」 を
  - ◎ 新しい積立金割合に変更する場合は 「2」 を
- 押してください。 ピー。

## 7 「2」（新しい積立金割合に変更）を押します。

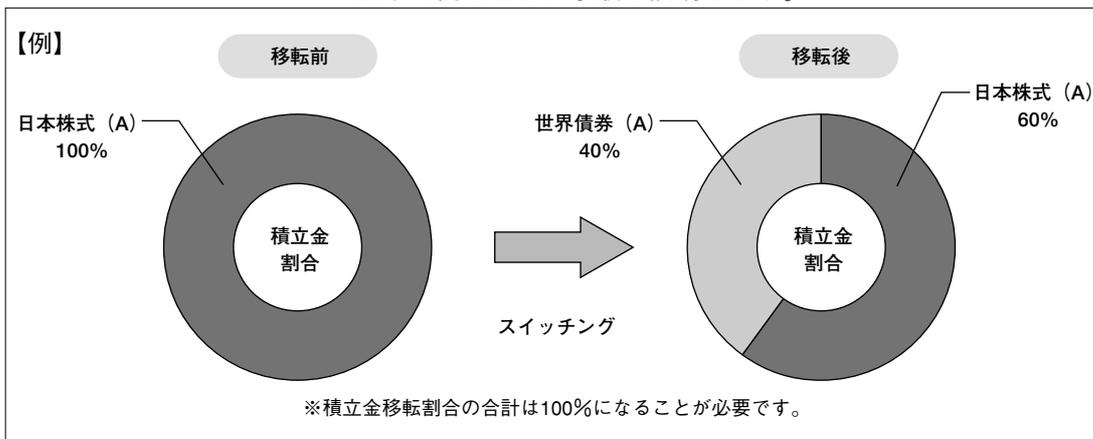
### 音声ガイダンス

- 特別勘定コードの入力が必要です。  
特別勘定コードがお判りにならない場合は 「1」 を
  - ◎ 特別勘定コードを聞かずに処理を続ける場合は 「2」 を
- 押してください。 ピー。

## 8 「2」（特別勘定コードを聞かずに処理を続ける）を押します。

### 特別勘定（ファンド）と積立金割合を入力します。

以下の例をもとに手順を説明します。



### 音声ガイダンス

- 特別勘定コードを入力し、最後に「#」を押してください。

## 9 特別勘定（ファンド）コードを入力します。

（【例】の場合、**4 0 1 #**（日本株式（A））と入力します。）

【例】の場合  
11の後、次のファン  
ドを入力する時

**4 0 6 #**  
（世界債券（A））

種 類	特別勘定の名称	コード	ユニットプライスの評価基準日
株 式 型	日本株式（A）	401	会社受付日
	日本株式（B）	402	
	日本株式（C）	403	
	日本株式（D）	404	
	世界株式（A）	405	
債 券 型	世界債券（A）	406	会社受付日の翌営業日
総 合 型	世界バランス（A）	407	
金融市場型	マネー（A）	408	会社受付日

音声ガイド

- 新しい積立金割合を入力し、最後に「#」を押してください。 ピー。

### 10 積立金割合 (%) を入力します。

(【例】の場合、**0****6****0****#**(60%) と入力します。)

【例】の場合

**11**の後、次のファンドを入力する時

**0****4****0****#**  
(40%)

アドバイス → 1つの特別勘定（ファンド）で100%を指定した場合は **12** へ進んでください。

アドバイス → 積立金割合の合計が100%となったら **12** へ進んでください。

音声ガイド

- ※※※の新しい積立金割合は、※※%ですね。積立金割合の合計は、※※%です。

◎よろしければ 「1」を

再度やり直す場合は 「2」を

押してください。 ピー。

### 11 確認して「1」を押します。

アドバイス → 「2」を押すと、直前に入力した特別勘定（ファンド）と割合を取り消して **9** へ戻ります。

続いて次の特別勘定（ファンド）を入力する時は、積立金割合の合計が100%になるまで **9** ~ **11** の作業を繰り返してください。合計が100%となると、次の **音声ガイド** が流れます。

音声ガイド

- ※※※の新しい積立金割合は、※※%ですね。積立金割合の合計が100%となりました。

◎よろしければ 「1」を

再度やり直す場合は 「2」を

押してください。 ピー。

### 12 確認して「1」を押します。

アドバイス → 「2」を押すと、直前に入力した特別勘定（ファンド）と割合を取り消して **9** へ戻ります。

最後の入力で積立金割合の合計が100%を超えた場合、**音声ガイド** 「積立金割合の合計が※※※%となりました。再度やり直す場合は「1」を、~」と案内されますので「1」を押すと、直前に入力した特別勘定（ファンド）と割合を取り消して **9** へ戻ります。

## 新しい割合を最終確認し、受付完了します。受付番号が発行されます。

音声ガイド

- 証券番号※※※の新しい積立金割合は、※※%が※※%です。

◎よろしければ 「1」を

再度やり直す場合は 「2」を

押してください。 ピー。

### 13 「1」を押すと受付番号がアナウンスされ、手続き完了です。

ご注意 → この受付番号の発行をもって手続き完了となりますので、お手続きの際は必ず受付番号を確認後に電話をお切りください。

アドバイス → 「2」を押すと、繰り返し入力した特別勘定（ファンド）と割合をすべて取り消して **6**（特別勘定の入力方式の選択）へ戻ります。

# グッドステージレポート 目次

種類	特別勘定の名称	投資対象となる投資信託等	資産運用関係費用*1	掲載ページ
株式型	<b>日本株式 (A)</b>	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA2 運用会社：フィデリティ投信 円建 残高約869.2億円	1.2915% (税込) 程度	・ ・ 6p
株式型	<b>日本株式 (B)</b>	ダイワ・バリュー株・オープンVA (底力VA) 運用会社：大和投資信託 円建 残高約78.6億円	1.2495% (税込) 程度	・ ・ 7p
株式型	<b>日本株式 (C)</b>	ドイチェ・ジャパン ファンドVA 運用会社：ドイチェ・アセット・マネジメント 円建 残高約6.6億円	1.2705% (税込) 程度	・ ・ 8p
株式型	<b>日本株式 (D)</b>	ダイワ・ジャパン・オープンVA (D.J.オープンVA) 運用会社：大和投資信託 円建 残高約12.6億円	1.2495% (税込) 程度	・ ・ 9p
株式型	<b>世界株式 (A)</b>	大和住銀／T.ロウ・プライス外国株式ファンドVA 運用会社：大和住銀投信投資顧問 投資顧問：T.ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド 円建 残高約95.2億円	1.4175% (税込) 程度	・ ・ 10p
債券型	<b>世界債券 (A)</b>	ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVA 運用会社：ブラックロック・ジャパン 円建 残高約117.5億円	1.0290% (税込) 程度	・ ・ 11p
総合型	<b>世界バランス (A)</b>	フィデリティ・バランス・ファンドVA2 運用会社：フィデリティ投信 円建 残高約34.6億円	1.2915% (税込) 程度	・ ・ 12p
金融市場型	<b>マネー (A)</b>	マネー・オープン 他 運用会社：大和投資信託	各月ごと に決定 <sup>*2</sup>	・ ・ 13p

※残高は2011年5月末現在

\*1 資産運用関係費用は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、監査報酬、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等がかかりますが、費用の発生前に金額や計算方法を確定することが困難なため表示することができません。  
また、これらの費用は投資信託の純資産総額より差し引かれます。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することになります。なお、資産運用関係費用は、運用手法の変更等により将来変更される可能性があります。

\*2 各月の前月の最終5営業日における無担保コール翌日物レートの平均値に0.525(税込)を乗じて得た率とします。ただし、当該率が年0.945%(税込)を超える場合には、年0.945%(税込)の率とします。

# 日本株式(A) (2011年5月末現在)

## ● 特別勘定について

### 基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日  
 【種類】株式型  
 【資産分類】日本株式  
 【運用方針】  
 日本の株式の中で、将来高い成長が期待できる銘柄を厳選して分散投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。  
 【投資対象となる投資信託】  
 フィデリティ・日本成長株・ファンドVA2

### ■ ユニットプライスの推移



### ■ 特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円、%)

資産等の種類	金額	構成比
現金	481	0.6%
有価証券等		
フィデリティ・日本成長株・ ファンドVA2	78,985	99.3%
その他	80	0.1%
資産合計	79,546	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	79,546	100.0%

### ■ ユニットプライスの期間収益率

	ユニットプライス	前月比
2008年 5月31日	140.16	—
2010年 5月31日	93.18	-12.10%
6月30日	88.77	-4.73%
7月31日	90.83	2.32%
8月31日	84.86	-6.58%
9月30日	88.30	4.06%
10月31日	86.45	-2.10%
11月30日	91.47	5.82%
12月31日	95.64	4.55%
2011年 1月31日	96.79	1.20%
2月28日	101.42	4.78%
3月31日	95.30	-6.04%
4月30日	93.57	-1.81%
5月31日	92.53	-1.11%
3か月変化率	—	-8.76%
6か月変化率	—	1.15%
1年変化率	—	-0.70%
3年変化率	—	-33.98%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

## ● 投資対象となる投資信託について

### フィデリティ・日本成長株・ファンドVA2の基本情報

【運用会社】フィデリティ投信  
 【運用対象】日本株式  
 【ベンチマーク】TOPIX (配当金込)  
 【投資の基本姿勢】  
 ①個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。  
 ●一般的に成長企業は、市場における高い競争力がありますので、市場占有率や価格競争力等において優位な状態にあります。  
 ●高い競争力を戦略的に活用し、経営効率を高め、株主利益の拡大に努めている企業に注目します。

●成長性については、利益または収益で計られる場合が多く、キャッシュフローが潤沢であることも注目点としてあげられます。  
 ②個別企業分析にあたっては、フィデリティ・グループの日本および世界主要金融拠点のアナリストによる企業調査結果を活かし、ポートフォリオ・マネジャーによる「ボトム・アップ・アプローチ」を重視した運用を行います。  
 ③ポートフォリオ構築にあたっては、分散投資を基本としリスク分散を図ります。

### 運用状況

#### ■ 市場別構成比 (2011.4末現在)

市場	構成比
東証1部	90.9%
東証2部	0.0%
ジャスダック	0.3%
その他市場	6.5%
現金・その他*	2.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合  
 \*「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド」(1.3%)を含みます。

#### ■ 上位5業種構成比 (2011.4末現在)

業種	構成比
1 電気機器	17.9%
2 銀行業	8.4%
3 輸送用機器	8.2%
4 卸売業	6.6%
5 機械	6.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■ 組入上位10銘柄 (2011.4末現在)

銘柄名	業種	構成比
1 ミスミグループ本社	卸売業	3.2%
2 オリックス	その他金融業	3.2%
3 トヨタ自動車	輸送用機器	3.1%
4 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.8%
5 三井住友トラスト・ホールディングス	銀行業	2.6%
6 ソフトバンク	情報・通信業	2.5%
7 マキタ	機械	2.3%
8 日立金属	鉄鋼	2.3%
9 三菱電機	電気機器	2.2%
10 大和工業	鉄鋼	2.1%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合 (銘柄数 194)

#### 【運用会社による投資信託へのコメント】 (2011.5末現在)

5月の東京株式市場は、総じて弱含みで推移しました。  
 前月末からの堅調地合いを引き継ぎ月初こそ小幅に上昇したものの、市場予想を下回る米マクロ経済指標が相次いで発表されると景気回復に対する楽観的な見方が後退、ドル安円高の進展や米株安に商品市況の急落も相俟って、大連連休明け以降の日本株も反落を余儀なくされました。その後は、福島第1原発事故の損害賠償を巡り、金融機関に東京電力向けの債権放棄を求めた枝野官房長官の発言が嫌気されたほか、ギリシャの債務再編観測を背景に欧州の財政不安が再燃、中国の更なる金融引き締め懸念も加わり、内外景気の先行き不透明感が強まる中、日本株は下落基調を辿りました。下旬に入ると、割安感に基づいた買いなどから下げ渋り、過度の高懸念が和らぐ中、最終日には小反発して月を終えました。  
 月間の騰落率は、TOPIX (配当金込) が▲1.56%、日経平均株価は▲1.58%となりました。

※当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。  
 ・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。  
 ・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって変動するリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。  
 ・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価格の動きとは異なり、これは、特別勘定が投資信託のほか保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。  
 ・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動フィナンシャル生命が提供するものであり、開示内容について東京海上日動フィナンシャル生命は一切責任を負いません。  
 ・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

## ● 特別勘定について

### 基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日  
 【種類】株式型  
 【資産分類】日本株式  
 【運用方針】  
 日本の上場株式および店頭登録株式の中から、取得時にPERおよびPBR等の指標または株価水準からみて割安と判断され、今後株価の上昇が期待される銘柄に投資します。  
 【投資対象となる投資信託】  
 ダイワ・バリュー株・オープンVA(底力VA)

### ■ ユニットプライスの推移



### ■ 特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円, %)

資産等の種類	金額	構成比
現預金	150	1.9%
有価証券等		
ダイワ・バリュー株・オープンVA(底力VA)	7,869	98.1%
その他	—	—
資産合計	8,020	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	8,020	100.0%

### ■ ユニットプライスの期間収益率

	ユニットプライス	前月比
2008年 5月31日	145.78	—
2010年 5月31日	90.09	-11.30%
6月30日	85.43	-5.17%
7月31日	85.37	-0.07%
8月31日	80.38	-5.84%
9月30日	83.74	4.18%
10月31日	82.39	-1.61%
11月30日	87.20	5.84%
12月31日	91.73	5.19%
2011年 1月31日	92.88	1.25%
2月28日	97.07	4.51%
3月31日	89.33	-7.97%
4月30日	87.45	-2.11%
5月31日	86.11	-1.53%
3か月変化率	—	-11.29%
6か月変化率	—	-1.25%
1年変化率	—	-4.42%
3年変化率	—	-40.93%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

## ● 投資対象となる投資信託について

### ダイワ・バリュー株・オープンVA(底力VA)の基本情報

【運用会社】大和投資信託  
 【運用対象】日本株式  
 【ベンチマーク】TOPIX  
 【投資の基本姿勢】  
 ①定量的分析  
 ●割安(バリュー)銘柄の選別  
 PERまたはPBRが市場平均程度以下の銘柄を投資対象銘柄として選別します。  
 ②定性的分析  
 ●事業の再構築力、新しい事業展開

経営資源の得意分野への集中、積極的な海外展開、競争力強化のための合併・買収・提携など、スピード感のある経営判断・事業展開・事業再構築の内容を検討します。

- 本業の技術力、市場展開力  
 本業の技術力・市場展開力により、持続的に利益を創出できるか、または一時的に減益になったとしても、次の回復局面で再度持続的に利益を創出できるかを検討します。
- 株主本位の経営姿勢  
 ストックオプションの導入、自社株消却の実施等、株主本位の経営姿勢に転換しつつあるかを検討します。

### 運用状況

#### ■ 資産構成比率 (2011.5末現在)

資産	構成比
国内株式	92.7%
国内株式先物	2.2%
合計	94.9%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■ 上位5業種構成比 (2011.5末現在)

業種	構成比
1 電気機器	13.0%
2 輸送用機器	10.2%
3 銀行業	8.1%
4 卸売業	7.4%
5 化学	5.7%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■ 組入上位10銘柄 (2011.5末現在)

銘柄名	構成比
1 トヨタ自動車	2.9%
2 本田技研	2.6%
3 三菱UFJフィナンシャルG	2.4%
4 三井住友フィナンシャルG	2.0%
5 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	1.8%
6 三菱商事	1.7%
7 日本電信電話	1.6%
8 三井物産	1.6%
9 みずほフィナンシャルG	1.5%
10 キヤノン	1.4%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合 (銘柄数 137)

### 【運用会社による投資信託へのコメント】(2011.5末現在)

<株式市況>

5月の国内株式市況は、TOPIX(東証株価指数)で前月末比1.6%の下落となりました。前半は、事前の市場予想を下回る米国経済指標の発表を受けて世界経済の先行き不透明感が高まったことなどから、下落基調となりました。その後も欧州債務問題に対する懸念の高まりや中国の景気減速懸念などから軟調な展開が続きました。月末にかけては、海外株が落ち着きを見せたことや被災した国内製造業の生産正常化に対する期待などを背景に、下げ止まりから反発へ向かいました。しかし、売買高は低調な推移が続き、総じて盛り上がり欠ける展開となりました。

<運用経過>

決算発表を受けて、業績面を重視した銘柄入れ替えなどを行いました。市場予想を上回る新年度の業績見通しを発表した銘柄、復興需要などにより会社側の見通しを上回る業績が期待できる銘柄、太陽光発電関連など中長期的な業績拡大が期待できる銘柄などを買い付けました。一方で、業績やバリュエーション指標面での魅力が相対的に見劣りすると判断した銘柄を売却しました。このような売買や株価変動により、業種では輸送用機器などの比率が上昇し、電気・ガス業などの比率が低下しました。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。  
 ・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。  
 ・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。  
 ・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価格の動きとは異なり、これは、特別勘定が投資信託のほか保険契約の異動等に備えて一定の現金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。  
 ・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動フィナンシャル生命が提供するものであり、開示内容について東京海上日動フィナンシャル生命は一切責任を負いません。  
 ・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# 日本株式(C) (2011年5月末現在)

## ● 特別勘定について

### 基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日  
 【種類】株式型  
 【資産分類】日本株式  
 【運用方針】  
 日本の株式を主要投資対象とし、ボトムアップ重視の独自の調査に基づいて分散投資を行い、長期的な値上がり益の獲得を目指します。独自のリスク分析により、ファンドのリスク水準をベンチマーク並みに抑えることを目指します。  
 【投資対象となる投資信託】  
 ドイチェ・ジャパン ファンドVA

### ■ ユニットプライスの推移



### ■ 特別勘定 純資産総額の内訳

(単位：百万円、%)

資産等の種類	金額	構成比
現預金	19	2.8%
有価証券等		
ドイチェ・ジャパン ファンドVA	660	97.2%
その他	—	—
資産合計	679	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	679	100.0%

### ■ ユニットプライスの期間収益率

	ユニットプライス	前月比
2008年 5月31日	130.59	—
2010年 5月31日	71.46	—9.54%
6月30日	68.45	—4.21%
7月31日	69.32	1.27%
8月31日	66.28	—4.39%
9月30日	68.19	2.88%
10月31日	67.19	—1.46%
11月30日	69.91	4.05%
12月31日	72.92	4.30%
2011年 1月31日	74.13	1.65%
2月28日	77.32	4.31%
3月31日	72.05	—6.82%
4月30日	71.09	—1.33%
5月31日	69.57	—2.14%
3か月変化率	—	—10.03%
6か月変化率	—	—0.50%
1年変化率	—	—2.65%
3年変化率	—	—46.73%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

## ● 投資対象となる投資信託について

### ドイチェ・ジャパン・ファンドVAの基本情報

【運用会社】ドイチェ・アセット・マネジメント  
 【運用対象】日本株式  
 【ベンチマーク】TOPIX  
 【投資の基本姿勢】  
 ①ボトムアップ重視の調査に基づき、わが国の株式市場にアクティブに分散投資を行います。

②2～3年先の企業の将来価値を算出し、将来価値と比較した現在の株価が割安かどうかを加味し、ポートフォリオを構築します。  
 ③様々なリスク分析を行い、管理不可能なリスクを抑え、ファンドの収益率の変動をベンチマーク以下に抑えるように努めます。

### 運用状況

#### ■ 資産配分比率 (2011.5末現在)

資産	構成比
株式	93.0%
現預金・その他	7.0%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■ 上位10業種構成比 (2011.5末現在)

業種	ポートフォリオ構成比	ベンチマーク構成比
1 電気機器	15.4%	14.7%
2 輸送用機器	11.5%	10.6%
3 化学	8.1%	6.1%
4 建設業	6.0%	2.2%
5 銀行業	6.0%	8.9%
6 卸売業	5.9%	5.5%
7 機械	5.9%	5.4%
8 情報・通信業	4.8%	6.1%
9 小売業	4.3%	3.7%
10 医薬品	3.4%	4.8%

※構成比はマザーファンド株式評価総額に対する割合

#### ■ 組入上位10銘柄 (2011.5末現在)

銘柄名	構成比
1 トヨタ自動車	4.0%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.6%
3 三菱ケミカルホールディングス	3.6%
4 昭和シェル石油	3.4%
5 村田製作所	3.2%
6 小松製作所	2.9%
7 アステラス製薬	2.8%
8 三井住友フィナンシャルグループ	2.5%
9 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	2.4%
10 日本電産	2.4%

※構成比はマザーファンド株式評価総額に対する割合 (銘柄数 69)

### 【運用会社による投資信託へのコメント】(2011.5末現在)

#### 〔市場の概況〕

5月の日本株式市場の騰落率は日経平均で前月比-1.58%、TOPIX(配当込みベース)で-1.56%となりました。好決算の発表を受けて米国株式市場が上昇したことや国際テロ組織アルカイダの指導者ウサマ・ビンラディン容疑者が殺害されたとの報道を好感し、日経平均株価は10,000円台を回復してスタートしました。しかし、日本の連休中に海外で商品市況が急落したことや円高が進行したことで連休明けの6日には反落しました。中旬にかけては決算発表が本格化し個別物色の強まる展開となる中で、福島原子力発電所事故の賠償スキームをめぐる債権放棄を迫られるとの観測から銀行株が売られたことなどが影響し、相場全体は弱含みでの推移となりました。その後は、19日に発表された日本の1-3月期GDPが前期比年率3.7%減となるなど国内外で事前予想を下回る経済指標が発表されたことやギリシャの財政問題に対する警戒感の高まりなどから売り圧力が強まり、月末にかけて軟調な動きとなりました。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。

・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。

・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。

・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価格の動きとは異なり、これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。

・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動フィナンシャル生命が提供するものであり、開示内容について東京海上日動フィナンシャル生命は一切責任を負いません。

・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

## ● 特別勘定について

### 基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日  
 【種類】株式型  
 【資産分類】日本株式  
 【運用方針】  
 日本の証券取引所上場株式を主要投資対象とします。ボトムアップアプローチを基本とし、各種投資指標から判断して割高と判断される銘柄を除外して投資します。  
 【投資対象となる投資信託】  
 ダイワ・ジャパン・オープンVA (D.J.オープンVA)

### ■ ユニットプライスの推移



### ■ 特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円, %)

資産等の種類	金額	構成比
現金	24	1.9%
有価証券等		
ダイワ・ジャパン・オープンVA (D.J.オープンVA)	1,268	98.1%
その他	—	—
資産合計	1,293	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	1,293	100.0%

### ■ ユニットプライスの期間収益率

	ユニットプライス	前月比
2008年 5月31日	116.57	—
2010年 5月31日	66.82	-11.08%
6月30日	63.46	-5.03%
7月31日	63.36	-0.16%
8月31日	59.11	-6.71%
9月30日	61.51	4.05%
10月31日	60.39	-1.82%
11月30日	63.13	4.55%
12月31日	66.38	5.15%
2011年 1月31日	68.09	2.57%
2月28日	70.57	3.64%
3月31日	65.22	-7.58%
4月30日	64.65	-0.88%
5月31日	63.61	-1.61%
3か月変化率	—	-9.86%
6か月変化率	—	0.76%
1年変化率	—	-4.80%
3年変化率	—	-45.43%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

## ● 投資対象となる投資信託について

### ダイワ・ジャパン・オープンVA (D.J.オープンVA) の基本情報

【運用会社】大和投資信託  
 【運用対象】日本株式  
 【ベンチマーク】TOPIX  
 【投資の基本姿勢】  
 ①企業業績の動向、株価水準などからみて投資価値が高いと考えられる銘柄を選別します。  
 ②選別した銘柄について、各種投資指標のヒストリカルデータを用い

て個別銘柄の特性を分析し、割高と考えられる銘柄を除外します。  
 ③さらに、利益水準、資産価値、成長性等を各銘柄間について比較して割安度を判断するとともに、経済動向の分析も勘案して、総合的な観点から投資する銘柄を絞り込みます。

### 運用状況

#### ■ 資産構成比率 (2011.5末現在)

資産	構成比
国内株式	92.1%
国内株式先物	1.8%
国内合計	93.9%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■ 上位5業種構成比 (2011.5末現在)

業種	構成比
1 電気機器	15.6%
2 輸送用機器	8.9%
3 機械	7.4%
4 化学	6.9%
5 銀行業	6.0%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■ 組入上位10銘柄 (2011.5末現在)

銘柄名	構成比
1 本田技研	2.3%
2 三井住友フィナンシャルG	2.3%
3 トヨタ自動車	2.3%
4 三菱商事	2.1%
5 ファナック	1.9%
6 三菱UFJフィナンシャルG	1.7%
7 プリヂストン	1.7%
8 グリー	1.6%
9 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	1.6%
10 オリックス	1.5%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合 (銘柄数 104)

### 【運用会社による投資信託へのコメント】(2011.5末現在)

5月の株式市場は続落でした。前半は、予想を下回る米国経済指標が続いたことなどから株価は下落しました。東京電力向けの債権放棄懸念が高まり、一時銀行株が大きく売られる局面もありました。後半に入っても、欧州財政問題や米国・中国景気減速への懸念などから株価は軟調に推移しました。

ポートフォリオについては、決算内容や事業環境の動向、中長期的な競争力などを勘案した銘柄選別を行いました。業種別では先月に比べ、電気機器、小売業などを引き上げ、化学、医薬品などを引き下げました。

運用実績については、ベンチマークであるTOPIX並みのパフォーマンスでした。業種では電気・ガス業のアンダーウエートはプラスに寄与しましたが、機械のオーバーウエートがマイナスに作用しました。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。  
 ・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。  
 ・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。  
 ・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価格の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほか保険契約の異動等に備えて一定の現金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。  
 ・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動フィナンシャル生命が提供するものであり、開示内容について東京海上日動フィナンシャル生命は一切責任を負いません。  
 ・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# 世界株式(A) (2011年5月末現在)

## ● 特別勘定について

### 基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日  
 【種類】株式型  
 【資産分類】外国株式  
 【運用方針】  
 日本を除く世界主要国の株式に分散投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。原則として為替ヘッジは行いません。  
 【投資対象となる投資信託】  
 大和住銀/T.ロウ・プライス外国株式ファンドVA

### ■ ユニットプライスの推移



### ■ 特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円、%)

資産等の種類	金額	構成比
現金	98	2.0%
有価証券等		
大和住銀/T.ロウ・プライス 外国株式ファンドVA	4,757	98.0%
その他	—	—
資産合計	4,856	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	4,856	100.0%

### ■ ユニットプライス及び為替レートの期間収益率

	ユニットプライス	前月比	ドル/円	前月比
2008年 5月31日	152.11	—	105.75	—
2010年 5月31日	89.06	-12.93%	91.31	-2.93%
6月30日	83.60	-6.13%	88.48	-3.10%
7月31日	88.11	5.40%	86.70	-2.01%
8月31日	81.99	-6.95%	84.56	-2.47%
9月30日	90.31	10.15%	83.82	-0.88%
10月31日	90.74	0.47%	80.89	-3.50%
11月30日	92.60	2.05%	84.27	4.18%
12月31日	94.60	2.16%	81.49	-3.30%
2011年 1月31日	95.25	0.69%	82.13	0.79%
2月28日	97.54	2.41%	81.71	-0.51%
3月31日	99.61	2.13%	83.15	1.76%
4月30日	99.91	0.30%	82.08	-1.29%
5月31日	95.61	-4.30%	80.88	-1.46%
3か月変化率	—	-1.98%	—	-1.02%
6か月変化率	—	3.25%	—	-4.02%
1年変化率	—	7.36%	—	-11.42%
3年変化率	—	-37.14%	—	-23.52%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

## ● 投資対象となる投資信託について

### 大和住銀/T.ロウ・プライス外国株式ファンドVAの基本情報

【運用会社】大和住銀投信投資顧問  
 投資顧問: T.ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド  
 【運用対象】日本を除く世界主要国の株式  
 【ベンチマーク】MSCIコクサイ・インデックス (円換算)  
 【投資の基本姿勢】  
 ① インターナショナル株式マザーファンドを通じて、日本を除く世界主要国の株式に分散投資を行うことにより、リスクの低減とグローバルな投資機会の獲得によるファンドの長期的な成長を目指します。  
 ② マザーファンドの運用の指図にかかる権限を、T.ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドへ委託します。

国別配分: 各国の経済成長率、金利、為替レート、金融政策、資金需要や各市場間の企業の相対的な魅力度分析により決定します。  
 銘柄選択: 銘柄選択については、個々の企業の経営戦略、業績予想等のファンダメンタルズ分析およびバリュエーションを考慮し、ボトムアップ・アプローチにより行います。ボトムアップ・アプローチとは、個別企業の経営陣の質、財務状況、商品力、市場に占める地位といったファンダメンタルズ(基礎的条件)を中心に調査・分析を行い投資判断を行う手法です。  
 リスクコントロール:  
 幅広く分散投資を行うことにより、リスクの低減を図ります。

### 運用状況

#### ■ 地域別内訳 (2011.5末現在)

地域別	ポートフォリオ構成比
西欧	22.8%
東欧	0.0%
中東	0.9%
アフリカ	0.0%
北米	57.0%
中米	9.0%
南米	3.8%
アジア	3.6%
オセアニア	0.0%
その他	0.0%

#### ■ 業種別内訳 (2011.5末現在)

セクター	構成比
エネルギー	11.1%
素材	8.9%
資本財・サービス	11.3%
一般消費財・サービス	11.6%
生活必需品	7.0%
ヘルスケア	3.7%
金融	16.7%
情報技術	24.1%
電気通信サービス	2.2%
公益事業	0.3%

#### ■ 組入上位10銘柄 (2011.5末現在)

銘柄名	国名	業種	構成比
1 APPLE INC	アメリカ	情報技術	4.5%
2 GOOGLE INC-CL A	アメリカ	情報技術	4.3%
3 JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	金融	3.7%
4 ACCENTURE PLC-CL A	バミューダ	情報技術	3.2%
5 ROLLS-ROYCE HOLDINGS PLC	イギリス	資本財・サービス	3.2%
6 WPP PLC	ジャージー島	一般消費財・サービス	3.1%
7 ANGLO AMERICAN PLC	イギリス	素材	3.0%
8 QUALCOMM INC	アメリカ	情報技術	2.9%
9 MASTERCARD INC-CLASS A	アメリカ	情報技術	2.8%
10 SCHNEIDER ELECTRIC	フランス	資本財・サービス	2.8%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合 (銘柄数 78)

### 【運用会社による投資信託へのコメント】(2011.5末現在)

#### <今後の見通し>

2011年に入ってから、市場の変動率の高さに直面しても株式市場が回復力を見せていることから、株式市場は中期的にプラスに向かうとの見方を引き続き強めています。マクロレベルでは、しばらく懸念を生じうる環境であるにもかかわらず、企業業績は堅調で推移してきた一方、株式の買戻しやM&A活動は増加しています。全体を見ると、株価水準は過去の基準と比較しても割安水準にあると見られ、企業のファンダメンタルズは良好で改善が続いています。現在のような企業の良好な利益水準が今後も持続して行かなくてはならない一方、世界のほとんどの国で景気は回復軌道にたとえ予想しています。  
 引き続き、最も強い経済成長は、新興諸国で続くと見られます。新興諸国の経済のファンダメンタルズの長期的な成長見通しは、債務負担の少なさ、健全な雇用水準、賃金レベルの上昇、消費需要の伸びなどの要因に押上げられ、堅調に推移していると見られます。インフレ懸念が短期的には高く推移する可能性があるとは見ていますが、新興諸国の金融当局が、今後のインフレ圧力を抑えるために必要な措置をとっていることには安心させられます。  
 今後も世界的に広がる自社の調査網を活用することで、より良い運用実績を上げるべく、努力を続けて行く所存です。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。  
 ・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。  
 ・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。  
 ・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価格の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現金を保有していること、ユニットプライスの計算にあり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。  
 ・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動フィナンシャル生命が提供するものであり、開示内容について東京海上日動フィナンシャル生命は一切責任を負いません。  
 ・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# 世界債券 (A) (2011年5月末現在)

## ● 特別勘定について

### 基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日

【種類】債券型

【資産分類】世界債券

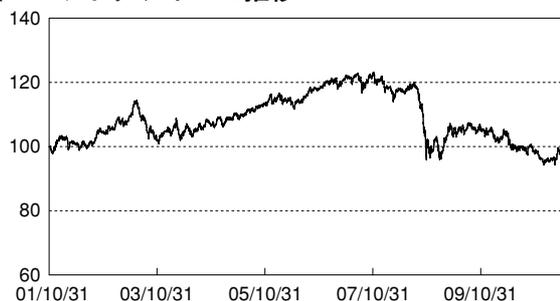
【運用方針】

日本を含む世界主要国の国債等(国債、政府機関債、国際機関債)を中心に公社債に投資を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。投資する公社債は、取得時において投資適格または同等の信用力を有するものとします。原則として為替ヘッジは行いません。

【投資対象となる投資信託】

ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVA

### ■ ユニットプライスの推移



### ■ 特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円、%)

資産等の種類	金額	構成比
現預金	148	1.2%
有価証券等		
ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVA	11,756	98.5%
その他	33	0.3%
資産合計	11,937	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	11,937	100.0%

### ■ ユニットプライス及び為替レートの期間収益率

	ユニットプライス	前月比	ドル/円	前月比
2008年 5月31日	117.11	—	105.75	—
2010年 5月31日	100.07	-3.90%	91.31	-2.93%
6月30日	98.49	-1.58%	88.48	-3.10%
7月31日	99.67	1.20%	86.70	-2.01%
8月31日	98.80	-0.87%	84.56	-2.47%
9月30日	100.36	1.58%	83.82	-0.88%
10月31日	97.92	-2.43%	80.89	-3.50%
11月30日	96.98	-0.97%	84.27	4.18%
12月31日	94.49	-2.56%	81.49	-3.30%
2011年 1月31日	95.57	1.13%	82.13	0.79%
2月28日	95.57	0.01%	81.71	-0.51%
3月31日	97.46	1.98%	83.15	1.76%
4月30日	98.64	1.21%	82.08	-1.29%
5月31日	97.31	-1.35%	80.88	-1.46%
3か月変化率	—	1.82%	—	-1.02%
6か月変化率	—	0.35%	—	-4.02%
1年変化率	—	-2.76%	—	-11.42%
3年変化率	—	-16.91%	—	-23.52%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

## ● 投資対象となる投資信託について

### ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVAの基本情報

【運用会社】ブラックロック・ジャパン

【運用対象】日本を含む世界主要国の公社債

【ベンチマーク】シティグループ世界国債インデックス(円ベース)

【投資の基本姿勢】

- ①金利・為替についての相場観に過度に依存しない投資機会、計算可能な相対価値(「レラティブ・バリュー」)に基づく投資機会を発見し、多種多様な投資機会を積み重ねていくことにより、安定した

超過収益をあげることが可能であると考え、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。

- ②外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

### 運用状況

#### ■ 通貨別構成比率 (2011.5末現在)

	ベンチマーク ウェイト	ポートフォリオ 債券ウェイト	ポートフォリオ 通貨ウェイト
米国・ドル	25.9%	6.7%	26.3%
カナダ・ドル	2.1%	2.2%	2.0%
メキシコ・ペソ	0.7%	—	0.7%
日本・円	31.3%	41.4%	30.8%
オーストラリア・ドル	0.8%	0.9%	1.1%
シンガポール・ドル	0.3%	—	0.4%
マレーシア・リンギット	0.4%	—	—
ユーロ	30.6%	23.3%	30.4%
英国・ポンド	5.6%	6.0%	5.6%
デンマーク・クローネ	0.6%	1.6%	0.6%
スウェーデン・クローナ	0.5%	0.6%	0.6%
スイス・フラン	0.4%	—	0.4%

	ベンチマーク ウェイト	ポートフォリオ 債券ウェイト	ポートフォリオ 通貨ウェイト
ポーランド・ズロチ	0.6%	0.5%	0.7%
ノルウェー・クローネ	0.2%	0.3%	0.3%
国際機関	—	1.4%	—
キャッシュ等	—	15.2%	—
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※ベンチマークのユーロ部分は、ユーロ加盟国のウェイトの合計です。  
※ベンチマークはシティグループ世界国債インデックス2011年6月の構成比率

※為替のポートフォリオの「日本・円」は、キャッシュ等を含みます。  
※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■ 組入上位10銘柄 (2011.5末現在)

銘柄名	利率	償還年月日	構成比
1 日本国債	0.144	2011/6/20	7.6%
2 日本国債	0.104	2011/7/25	7.1%
3 日本国債	2.100	2027/12/20	7.1%
4 日本国債	1.400	2019/9/20	6.9%
5 日本国債	0.119	2011/6/6	5.5%
6 日本国債	0.104	2011/7/4	3.8%
7 イギリス国債	4.250	2040/12/7	2.9%
8 ドイツ国債	2.500	2021/1/4	2.5%
9 日本国債	1.000	2020/9/20	2.3%
10 ドイツ国債	2.000	2016/2/26	2.1%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合 (銘柄数 104)

修正デュレーション=平均5.30年 (ベンチマーク=同6.36年)

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。  
・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。  
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。  
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価格の動きとは異なり、これは、特別勘定が投資信託のほか保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。  
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動フィナンシャル生命が提供するものであり、開示内容について東京海上日動フィナンシャル生命は一切責任を負いません。  
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# 世界バランス(A) (2011年5月末現在)

## 特別勘定について

### 基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日  
 【種類】総合型  
 【資産分類】バランス  
 【運用方針】  
 日本を含む世界各国の株式、債券、短期金融商品に分散投資を行います。原則として為替ヘッジは行いません。  
 【投資対象となる投資信託】  
 フィデリティ・バランス・ファンドVA2

### ■ユニットプライスの推移



### ■特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円, %)

資産等の種類	金額	構成比
現預金	76	2.2%
有価証券等		
フィデリティ・バランス・ ファンドVA2	3,464	97.8%
その他	—	—
資産合計	3,541	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	3,541	100.0%

### ■ユニットプライス及び為替レートの期間収益率

	ユニットプライス	前月比	ドル/円	前月比
2008年 5月31日	119.51	—	105.75	—
2010年 5月31日	89.25	-7.32%	91.31	-2.93%
6月30日	86.31	-3.28%	88.48	-3.10%
7月31日	87.48	1.35%	86.70	-2.01%
8月31日	84.07	-3.90%	84.56	-2.47%
9月30日	86.77	3.20%	83.82	-0.88%
10月31日	85.43	-1.54%	80.89	-3.50%
11月30日	87.65	2.60%	84.27	4.18%
12月31日	88.75	1.25%	81.49	-3.30%
2011年 1月31日	89.69	1.06%	82.13	0.79%
2月28日	91.64	2.17%	81.71	-0.51%
3月31日	89.97	-1.83%	83.15	1.76%
4月30日	90.09	0.14%	82.08	-1.29%
5月31日	88.50	-1.77%	80.88	-1.46%
3か月変化率	—	-3.43%	—	-1.02%
6か月変化率	—	0.97%	—	-4.02%
1年変化率	—	-0.84%	—	-11.42%
3年変化率	—	-25.95%	—	-23.52%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

## 投資対象となる投資信託について

### フィデリティ・バランス・ファンドVA2の基本情報

【運用会社】フィデリティ投信  
 【運用対象】日本を含む世界各国の株式、債券、短期金融商品  
 【ベンチマーク】複合インデックス (円ベース)  
 TOPIX (配当金込): 25%、MSCIワールド・インデックス (除日本): 25%  
 ※税引前配当金込で算出、シティグループ日本国債インデックス: 15%、  
 シティグループ日本を除く世界国債インデックス: 10%、シティグループ  
 世界マネーマーケット・インデックス1ヶ月ユーロ預金インデックス (円セ  
 クター): 15%、シティグループ米短期国債インデックス米1ヶ月物国債  
 インデックス: 10%  
 【投資の基本姿勢】  
 ①資産配分については、複合ベンチマークの配分を中心とした緩やか

な調整を行います。  
 ②株式部分については、個別企業分析により、成長企業を選定し、利  
 益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。  
 ③株式以外の部分については、安定性を重視した運用を行います。  
 ④個別企業分析にあたっては、フィデリティ・グループの日本および  
 世界主要金融拠点のアナリストによる企業調査結果を活かし、現  
 地ポートフォリオ・マネージャーによる「ボトム・アップ・アプロ  
 ーチ」を重視した運用を行います。  
 ⑤原則として外貨建資産の為替ヘッジは行いません。

### 運用状況

#### ■資産別組入状況 (2011.4末現在)

資産別	構成比
日本株式	24.6%
外国株式	28.2%
北米	15.7%
欧州	9.9%
その他	2.6%
円建債券	14.0%
外貨建債券 (含 債券型投信3.0%)	9.7%
円建短期金融商品*	11.5%
外貨建短期金融商品*	9.5%
現金等	2.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合  
 \*短期金融商品には残存期間1年未満の債券を含みます。  
 株式には投資証券、リート、ワラントを含みます。

#### ■株式組入上位5銘柄 (2011.4末現在)

銘柄名	国名	業種	構成比
1 トヨタ自動車	日本	輸送用機器	1.3%
2 大塚商会	日本	情報・通信業	0.9%
3 三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	銀行業	0.9%
4 任天堂	日本	その他製品	0.8%
5 三井物産	日本	卸売業	0.8%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■債券組入上位5銘柄 (2011.4末現在)

銘柄名	国名	構成比
1 第179回 国庫短期証券 0.1436% 2011/06/20	日本	7.3%
2 第301回 2年国債 0.2% 2013/02/15	日本	3.3%
3 FF-US DOLLAR BOND FUND Y-ACC-USD	ルクセンブルグ	3.0%
4 第66回 5年国債 1.1% 2012/09/20	日本	2.1%
5 USTN 0.875% 2011/04/30	アメリカ	1.8%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■通貨別組入状況 (2011.4末現在)

通貨	構成比
日本円	50.9%
米ドル	28.7%
ユーロ	10.5%
英ポンド	4.2%
その他	5.6%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

#### ■銘柄数 459 (2011.4末現在)

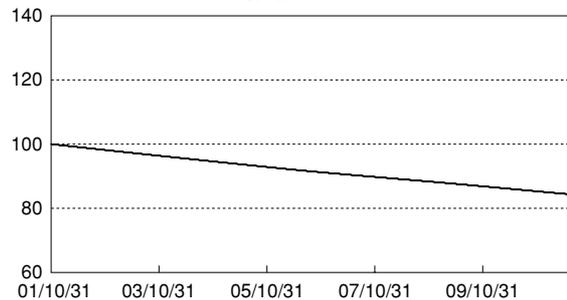
・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。  
 ・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。  
 ・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。  
 ・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価格の動きとは異なり、これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。  
 ・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動フィナンシャル生命が提供するものであり、開示内容について東京海上日動フィナンシャル生命は一切責任を負いません。  
 ・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

## ● 特別勘定について

### 基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日  
 【種類】金融市場型  
 【資産分類】短期金融商品  
 【運用方針】  
 円建ての短期金融商品を中心に投資します。流動性に十分配慮し、リスクを抑えた安定的な運用を行います。  
 【投資対象となる投資信託】  
 マネー・オープン 他

### ■ ユニットプライスの推移



### ■ 特別勘定 純資産総額の内訳

(単位：百万円、%)

資産等の種類	金額	構成比
現預金	336	21.4%
有価証券等		
マネー・オープン	1,235	78.6%
その他	—	—
資産合計	1,572	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	1,572	100.0%

### ■ ユニットプライスの期間収益率

	ユニットプライス	前月比
2008年 5月31日	88.93	—
2010年 5月31日	85.94	-0.16%
6月30日	85.81	-0.14%
7月31日	85.68	-0.16%
8月31日	85.55	-0.15%
9月30日	85.42	-0.15%
10月31日	85.29	-0.15%
11月30日	85.16	-0.15%
12月31日	85.04	-0.15%
2011年 1月31日	84.91	-0.15%
2月28日	84.79	-0.14%
3月31日	84.66	-0.15%
4月30日	84.54	-0.15%
5月31日	84.41	-0.15%
3か月変化率	—	-0.45%
6か月変化率	—	-0.89%
1年変化率	—	-1.78%
3年変化率	—	-5.08%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

## ● 投資対象となる投資信託について

### マネー・オープン 他 の基本情報

【運用会社】大和投資信託  
 【運用対象】円建て短期金融商品  
 【ベンチマーク】特に定めなし  
 【投資の基本姿勢】  
 主にマネー・オープン等の短期金融商品に投資を行い、安定的な収益の確保をはかる。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。  
 ・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。  
 ・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。  
 ・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価格の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。  
 ・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動フィナンシャル生命が提供するものであり、開示内容について東京海上日動フィナンシャル生命は一切責任を負いません。  
 ・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

# <用語解説集>

－アルファベット－

## MSCI 指数

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル (MSCI) は、30年以上に及ぶ歴史の中で培った独自の手法を基に、世界の証券市場をカバーする包括的なグローバル指数の構築を行っています。MSCI指数は、国際投資における最も信頼性の高いグローバル・ベンチマークとして、世界中の分散投資家およびグローバルに資産運用を行うポートフォリオ・マネージャーの間で幅広く利用されています。

## MSCI Kokusai Index

日本を除く先進国市場で構成される指数。

－ア行－

## アクティブ運用

市場が効率的ではないという仮説に基づき、その非効率性を利用 (独自の調査、見通し、手法等) して、市場平均よりも高いパフォーマンスを得ることが可能であるとする運用スタイル。

－カ行－

## 格付

格付とは個別債券の発行体の元本償還、利払いの確実性について、格付機関が記号でランク付けするものです。格付の表示記号は格付機関によって違いはありますが、AAAを最高位に、以下AA→A→BBB…とアルファベットで表示するのが一般的です。そして、BBB以上の債券については投資適格債、それ未満は投資不適格債 (ジャンク債) として区別しています。この格付は債券の利率に影響を与え、高格付債は安全性が高い分、利率は低く、低格付債は安全性が低い分、利率は高くなります。

## 為替ヘッジ

外貨建資産投資に伴う為替変動リスクを回避する手段として為替ヘッジがあります。具体的には、為替先物予約等を活用して、円換算時の為替レートを予約します。ただし、為替ヘッジを行うためには、ヘッジコストがかかることになり、その分パフォーマンスに影響を与えることとなります。

－サ行－

## シティグループ世界国債インデックス

先進国市場で売買可能な国債の総合投資利回りを指数化したものの。インデックスは、残存1年以上の固定利付債の総合投資利回りを時価総額比率で加重平均して計算されます。

## 新変額個人年金保険

年金が資産の運用実績に基づいて増減する年金保険です。

## 成長株投資

株式の投資スタイルの1つで、「グロース型」ともいい、企業の利益成長率を重視し、成長力、収益力が高いと思われる企業に投資を行います。

－タ行－

## 積立金

特別勘定で管理・運用されている資産のうち個々のご契約に係る部分をいい、資産運用実績により毎日増減します。

## デュレーション

債券価格の変動金利に対する感応度を表し、例えば、債券のデュレーションが大きいほど金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。また、これは債券投資元本の回収までに要する加重平均残存期間と表すこともできます。

## 東証株価指数 (TOPIX)

東証一部全上場銘柄の各株価に、それぞれの上場株式数を乗じ指数化したものです。時価総額加重方式の指数で、市場実勢を最もよく反映している指数といえます。日経平均株価の欠点を補うために1968年1月4日創設されました。

## 特別勘定

新変額個人年金保険の資産を運用・管理するための専用勘定であり、他の保険種類の資産とは明確に区分経理されます。当社の新変額個人年金保険では、複数の特別勘定を設置して、各特別勘定毎に独立して運用・管理を行います。

－ハ行－

## パッシブ運用

市場が効率的であるという仮説に基づき、市場平均以上のパフォーマンスを得ることはできないため、市場ポートフォリオ (インデックス全構成銘柄) 等に投資する運用スタイル。

## ベンチマーク

「基準」という意味で幅広く使われる言葉で、資産運用に関連しては、運用の目標基準あるいは運用成績の相対的な評価基準を示します。

－ヤ行－

## ユニット数 (単位数)

個々の契約に係る積立金のうち、各特別勘定の部分を各特別勘定のユニット単価で除して求めた数 (口数) です。契約者における各特別勘定ごとのユニット数は、契約内容の変更等を通じて増減します。

## ユニットプライス (単価)

各特別勘定資産の積立金の1ユニット (単位数) に対する価額のことをいい、設定時を「100」とする指数で表示されます。特別勘定資産の評価 (ユニットプライス) を反映しています。

－ラ行－

## リザーブファンド

急激な相場の変化時や今までの利益を確定したい場合等に、一時的に資産を待避させるためのファンド。

－ワ行－

## 割安株投資

株式の投資スタイルの1つで、「バリュ型」ともいい、例えば、PER (株価収益率)、PBR (株価純資産倍率)、利回り等の指標から割安と判断した銘柄に対して投資を行います。

## 投資リスクについて

この保険は払込保険料を積立金として特別勘定で運用し、特別勘定を構成する投資信託の運用実績等に応じて、年金額、解約払戻金額等が増減する保険です。そのため国内外の有価証券(株式や債券)の価格下落や為替相場の変動により、投資信託の基準価格が下がった場合、年金額、解約払戻金額等は既払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。これらのリスクはご契約者に帰属することになりますので十分ご注意ください。なお、お客さまがスイッチング(積立金の移転)を行った際には、選択した特別勘定の種類によっては基準となる指標やリスクの種類が異なることとなりますのでご注意ください。

## ご負担いただく費用について

### ■運用期間中の費用(すべてのご契約者にご負担いただく費用)

項目	費用
保険関係費用(保険契約管理費)	特別勘定の純資産総額に対して年率1.85%
資産運用関係費用*(資産運用管理費)	上限年率1.4175%程度(税込) 各特別勘定により異なります。詳しくは「投資型年金グッドステージ 特別勘定のしおり」をご覧ください。

### ■お取引の内容による費用(特定の取引のご契約者にご負担いただく費用)

項目	適用	費用
積立金移転費用	1保険年度12回を超える積立金の移転の際	1保険年度に12回までの移転…無料 1保険年度に12回を超える移転…1回につき1,000円(税込)
契約者貸付利息	契約者貸付を受けたとき	貸付金額に対して年率1.85%
解約控除	解約するとき	積立金額に対して7%~1%(経過年数に応じて)
	減額するとき	減額に相当する積立金額に対して7%~1%(経過年数に応じて)

### ■年金支払期間中の費用(将来、以下の内容が変更になることがあります)

#### ●保証期間付終身年金、確定年金の場合

項目	適用	費用
保険関係費用(年金管理費)	当保険の維持管理等に必要な費用	支払年金額に対して1.0%

#### ●特別勘定年金の場合

項目	適用	費用
保険関係費用(年金管理費)	特別勘定年金の維持管理等に必要な費用(基本保険金額を最低保証するための費用および災害死亡保険金などの費用を除きます)	特別勘定の純資産総額に対して年率1.17%
資産運用関係費用*(資産運用管理費)	保険関係費用(年金管理費)以外で、特別勘定の運用に係わる費用として支払われます。	上限年率1.4175%程度(税込) 各特別勘定により異なります。詳しくは「投資型年金グッドステージ 特別勘定のしおり」をご覧ください。

### ■ご負担いただく費用の合計額について

この商品にかかる費用の合計額は、上記「保険関係費用」、「資産運用関係費用」の合計額となります(ただし、一定期間内の解約については「解約控除」、積立金の移転が1保険年度12回を超えた場合には「積立金移転費用」等が別途かかりますのでご注意ください)。

\*資産運用関係費用は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、監査報酬、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等がかかりますが、費用の発生前に金額や計算方法を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は投資信託の純資産総額より差し引かれます。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することになります。なお、資産運用関係費用は、運用手法の変更等により将来変更される可能性があります。

## ご注意いただきたい事項

- 「投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)」は東京海上日動フィナンシャル生命保険株式会社を引受保険会社とする生命保険(変額保険)です。
- 「投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)」には投資リスクがあり、投資リスクはご契約者に帰属します。場合によっては将来お受け取りになる金額が、払込保険料総額を下回る可能性があります。

<b>【募集代理店】</b>  <b>大和証券</b> Daiwa Securities	<b>【引受保険会社】</b>  <b>東京海上日動フィナンシャル生命保険株式会社</b> 〒141-6008 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower TEL 03-6420-4000(大代表) ホームページ <a href="http://www.tmn-financial.co.jp">http://www.tmn-financial.co.jp</a>  ご契約内容・各種手続きに関するお問合せは <b>ご契約者さま専用テレホンサービス ☎ 0120-155-730</b> 受付時間：月～金/9:00～17:30 (祝日および12月31日～1月3日は休業とさせていただきます。)
---	--